



TITLE:

<大會抄録>隋唐五代の義兄弟結合について

AUTHOR(S):

谷川, 道雄

CITATION:

谷川, 道雄. <大會抄録>隋唐五代の義兄弟結合について. 東洋史研究
1979, 38(3): 487-487

ISSUE DATE:

1979-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/153736>

RIGHT:

隋唐五代の義兄弟結合について

谷 川 道 雄

六朝以來の貴族制的社會秩序が解體してゆく過程において、人びとはどのような人的結合關係のもとに時代を生きたのであろうか。これが本研究の基本テーマである。

このような課題に直接かかわる事象として、隋唐五代にひろく見られる所謂假父子結合があり、戦後の學界でも唐宋變革の性格を解く手がかりとして注目されてきたが、そこにはなお考究すべき點が少くない。ところで、假父子結合の行われた同時期には、これと並行して、同じく擬制家族的結合様式たる義兄弟結合が見られる。すなわち、異姓あるいは異族の間で兄弟の契を結ぶことが頻繁に行われた（「結爲兄弟」、「約爲兄弟」）。その動機はさまざまであるが、大別すれば、(i)國家・政治勢力の代表者同士が政治的同盟のために結ぶもの（「兄弟之國」）、(ii)相手の持つ社會的聲望や政治的權勢を目當てに結ぶもの（合族、通譜）、(iii)恩義・尊敬・友誼などもつばら個人の人格にかかわる連帶感によって結ばれるもの、などがある。(iv)は同志的結合組織ともなつて唐五代の自立的藩鎮や國家の興起に一役買ったが、後世の匪賊團や祕密結社の構成原理とも一脈通じるところがある。

要するに、義兄弟結合は身分的に對等な人的結合が擬制家族として表現されたものであるが、假父子結合もこれとの關連でとらえてみる必要がある。